

大江町の小中学校のあり方基本方針（案）に係るパブリックコメントへの回答

意見	項	項目	ご意見	回答
1	4項	②新しい時代の学びとそれを支える環境整備	<p>「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」の引用がなされ「脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現」とあります。これは非常に重要な視点だと感じる一方で、「生物多様性や生態系サービスの保全」についての言及がなされていないことに大きな問題を感じます(これは町の問題ではなく文科省の問題ですが)。</p> <p>数ある環境問題の中で気候変動は重大な問題ですが、同時に生物多様性の低下は生態系サービスの低下を生み、私たちの生活を脅かす深刻な問題です。その問題点を学ぶことの入り口が低学年における自然とのふれあいであり、高学年や中学校では問題点を学んでいく流れが必要と考えます。国が進める校舎への木材利用や太陽光パネルの設置といった取り組みだけでは持続可能な社会に向けた人材の育成とすと不十分だと感じます。</p> <p>義務教育学校の整備にあたっては、文科省の先を行く、大江町の自然の本当の豊かさと問題点が学べる学校であってほしいと感じます。</p>	<p>ご意見については、文部科学省の学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議で示された「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」の最終報告書の内容を記載している部分です。今後大江町の学校で環境問題を学んでいく方法については、ご意見を参考とさせていただき検討していきたいと考えます。</p>
2	8項	(2)『共生郷育』により「地域と共に歩む学校」を	<p>共生郷育を謳う上で、地域の大人が子供たちを支える視点は随所にみられますが、子供が大人を支える視点があってもいいように感じました。</p> <p>例えば、本郷東小学校のきらりっ子発表会では、5年生の川の学校で学んだ、生物多様性から、見た月布川の問題点と解決案が発表されていたり、リンゴの学習の発表では大人も知らないリンゴの品種の見分けがクイズ形式で発表されていました。</p> <p>子どもは大人よりも柔軟に知識や考え方を更新することができます。大人が子供から新しい学びを得る場面は多く、その視点を入れることで「地域と共に歩む」ことにより近づくのではないのでしょうか？</p>	<p>基本方針(案)は義務教育期間の目標と町の小中学校のあり方の方向性を示すものです。『共生郷育』で学校の学びに地域の方々が参画することで、「地域と共に歩む学校」を目指しています。この活動で子どもたちと大人の相互交流と学び合いがより一層行われ、生涯学習の充実につながっていくことも図っていきたいと考えます。</p>

3	11 項	(3)『共生郷育』を最も効果的に行うために小学校を町で一つに	<p>2段目に豊かな農作地、豊かな自然といった文言があります。(同じような表現は計画のいたるところに見られますが)。確かに豊かであるのですが、問題も山積しています。</p> <p>特に七軒地区では年々耕作放棄地が増えています。月布川では、護岸による生物多様性低下が起こり、最上川は多くの魚種が外来生物に置き換わっています。</p> <p>大江町の自然や農業が置かれた現状は必ずしも「豊か」ではありません。「豊か」という言葉は、特に子供たちには誤解を生む場合があります。使い方には注意が必要です。</p> <p>学年に応じ、豊かさを学ぶ段階から、現実を学ぶ段階まで必要であり、基本方針の中に盛り込んでもいいように感じます。</p> <p>私たち大人はどうしても、子供たちに「わが町の素晴らしさ」を伝えたいというバイアスがかかります。問題点も正直に伝えていくことが大人の役割のひとつだと感じます。</p>	<p>基本方針(案)は義務教育期間の目標と町の小中学校のあり方の方向性を示すものです。「豊かさ」については、個人差があることが考えられますが、町で行った調査では、多くの町民の方が「町の自然は豊か」と認識しているという調査もあります。方向性を示すということでは記載内容で問題ないと認識しておりますが、今後の計画等策定時にはご意見を参考にさせていただきます。</p>
4	10 項	複式学級について	<p>複式学級は、少人数ゆえに教員が一人ひとりの子どもを深く理解しながら指導できる利点があります。実際に複式学級で学んだ経験からも、教員との相性の良さや質の高い指導が学習意欲に好影響をもたらしたと考えます。</p> <p>一方で、複式学級を十分に活かすためには、教員が指導に専念できる体制づくりが不可欠です。地域との連携や保護者からのサポートをより積極的に導入することで、教員がクラス運営と個別指導の両面に丁寧に向き合える環境を整え、子どもの学びをさらに充実させていただきたいです。また、複式学級は小規模だからこそ可能な学習や個々のニーズに応じた配慮がしやすいため、「個別最適な学び」を実現するひとつの方法ともいえます。ぜひ、複式学級導入・維持する場合には、教員の負担軽減や連携体制の強化などの支援策を進めていただきたいと思います。</p>	<p>ご意見にありますように、複式学級には利点も多くあることを理解したうえで、十分にその点が生かされるように、教職員体制や教育課程の調整等の準備を行い対応していきたいと考えています。</p>

5	8項	学習状況や不登校	<p>学校・家庭・地域が一体化となる「共生郷育」の実現には、地域や外部専門家の力を活用した協働体制が不可欠であり、これによって教員が子どもと向き合う時間を確保しやすくなります。教員の負担軽減は、授業や児童生徒とのコミュニケーションの質を高めるうえで極めて重要だと考えます。また、一部の保護者による過度な要求から教員を守る仕組みや、相談・調整窓口の整備を進めることで教職員がより安心して教育に専念でき、結果として子どもの学びの質の向上につながると考えます。</p> <p>「共生郷育」の理念をさらに拡充し、多様な学びのスタイル(不登校支援だけでなく、ホームスクール等)にも理解を示すことで、子ども一人ひとりの個性や状況に合わせた柔軟な学習環境を提供できると考えます。</p> <p>不登校をネガティブにとらえず、「学校外での学習」と前向きに捉え、ICT ツールや地域人材との連携を通じて、子どもの学びが途切れることなく続けられる体制を構築していただきたいです。これにより、学習意欲の維持・向上だけでなく、子どもの自己是定感の醸成や将来の多様な生き方への準備にもつながります。</p>	<p>「共生郷育」により「地域と共に歩む学校」にしていくため、地域の方と学校が協働する体制づくりを進めていきたいと考えています。</p> <p>多様な学びに対応する取組も含め、具体的な取組については、今後の学校統合準備委員会などにおいて協議をしていくことを想定しており、その際にご意見を参考にさせていただきます。</p>
6	3項	求められる学校教育の姿	<p>新しい時代の教育では、「個別最適な学び」が求められており、AI・動画等のICTを活用することで、子ども一人ひとりの習熟度や興味に応じた効率的・効果的な学習が実現できます。宿題を削減し、家庭での親子の対話や十分な睡眠時間を確保することは、子どもの健全な成長と学力の質的向上の双方に寄与すると考えます。日本の平均睡眠時間は約7時間20分前後とOECD加盟国の中で最下位(ワースト1位)とする調査結果が多く、このことから量から質へ学習の重心を移し、睡眠時間を確保しテクノロジーの力を活用してより深い学びを育む環境づくりを推進していただきたいです。</p>	<p>大江町でも「個別最適な学び」を進める上では、ICT等の活用がより重要になってくると考えています。今後の具体的な学校像を定めていく基本構想・基本計画等策定時にはご意見を参考にさせていただきます。</p>
7	10～	統合について	<p>小学校統合や義務教育学校創設のスケジュールは、ソフト面・ハード面の課題を十分検討したうえで導き出された最善の時期と理解していま</p>	<p>義務教育学校の建物の建設・改修については令和8年度に決定することとしており、今後の具体的</p>

14 項			<p>す。新しい学校づくりに大きく賛同しつつも、建物そのものは、稼働率の低い教室やスペースを極力減らすことで、よりコンパクトでエネルギー効率の高い施設にしていきたいと考えます。</p> <p>これは、維持管理や修繕費などランニングコストを抑えながら、教育の質を高めるためにも有益と考えられます。一方、子どもたちが心身を伸びやかに育めるよう、運動場など屋外の活動空間は広く確保いただければと思います。無駄を省きながらも機能的で、子どもたちの身体的・精神的成長を十分に支える設計となるよう、前向きな検討をお願いいたします。</p>	<p>な学校像を定めていく基本構想・基本計画等策定時にはご意見を参考にさせていただきます。</p>
8	全 頁	方針案全般について	<p>今回の基本方針(案)の表現について魅力のなさを感じます。</p> <p>内容的には、合併のスキームと大枠の方針について記載されているように感じますがそもそもの教育の本質的な部分が魅力的に表現されていないことと未来へ向けての発想の広がりを感じます。</p> <p>学ぶ側の子どもたちが、わくわくする計画でないといけないのに、大人の私たちが子供たちへ自慢できる計画を作るための方針が表現されていない。「合併と、今ある教育の加筆」といった窮屈な方針に見えていて、柔軟性を感じません。</p> <p>ゆえに、学ぶことそのものが未来に向けて発展的で魅力的な教育の姿が見える基本方針になるよう方針の構成をのびやかなものにするべき。</p> <p>学ぶ側の子供たちに自慢できる、子供たちがワクワクする計画を作れるようにするための方針の表現に書き直すべき。</p> <p>そしてその再構成するときのコツとして、極端な発想と、目の前の課題解決を同時に考える計画作成であってほしい。</p> <p>目の前の課題解決は必須だが、そこに注力してしまうとここ数年のことにしか対応しない計画になる。できそうにないけれど極端な発想が一度考えてみことができると、創造性豊かな計画ができる。</p> <p>その極端な発想をブラッシュアップして数年後までの計画に策定させて</p>	<p>基本方針(案)は義務教育期間の目標と町の小中学校のあり方の方向性を示すものです。子どもたちが大江町でどのように学び、育成していくかという目指す方向性や具体的な取組と行動等については、教育基本計画に定めていくことになります。いただきましたご意見は、今後教育基本計画の改定等の際に参考にさせていただきます。</p>

			<p>いってほしい。それを可能にするためには作成者自身の、情報収集と学習が不可欠である。</p>	
9	8～9項	3つの基本方針の内容	<p>「郷育」というあたかも地域教育や地元愛をはぐくむことが見事に反映されたワードが前面に美しく見えるよう表現されていていいように見えるが、説明をざっと読み取ると従来行っていることを開放的に変化させた内容にすることや、魅力的なことだと感じさせる表現が見受けられない。ゆえに、大人たちが上から目線で教えるような現場の姿が見えてしまう表現になっている。生徒が自慢したくなる「郷」になる、体験的、行動的、主体的なアクションの教育現場になる計画を作れるようにするための方針に表現を書き換えるべき。</p> <p>「地域とかかわったり、地域のことを知る機会が時々あるだけ」のような計画にならないよう、常に学校での日常でワクワクできる「郷」があふれている教育と環境がある計画を作れる方針に書き換えるべき。</p>	<p>基本方針(案)に示した3つの方針は小中学校のあり方の方向性を示すものです。『共生郷育』で学校の学びに地域の方々が参画することで、「地域と共に歩む学校」を目指しています。この活動で子どもたちと大人の相互交流がより一層行われ、魅力的な学びとなるよう図っていきたいと考えますが、具体的な内容については今後の学校統合準備委員会などにおいて協議をしていくことを想定しており、その際にご意見を参考にさせていただきます。</p>
10	10項	小学校の統合時期	<p>2月24日の大江町の小中学校のあり方基本方針案説明会及び意見交換会の席上、最初に質問した教育に詳しい男性が本郷東小学校の統合時期を1年早めて令和9年度にすべきだと話していた。私も同感で続けてそのような意見を申し上げた。今までにこのような意見はなかったのか。あり方検討委員会の提言2の文言に正確に尊厳していない。町がいう令和7～9年度は、統合への準備期間と位置づけていると思われるが、基本方針案10ページ(2)を読みつつ、意見を上げると、まず一般的に「小学校は複式学級を解消するため」に、この町のあり方を進めるわけだから、令和7,8年度の2年間を先行統合の完成や閉校準備の事務に専念すべき重要な時期と考えるべきだ。町は「令和9年度より複式学級が始まる」時期を準備期間に取って加えてしまった。あわせて、複式学級を開始するための教育にも新たに注力せざるを得なくしてしまったのではないか。その理由は理解できない。具体的に「教員の特別な技術が必要」となり、「配置される教職員数の減少などの課題も発生」と書</p>	<p>大江町の学校あり方検討委員会（以下、検討委員会）の提言の2は「今後、小学校において複数の複式学級の発生が見込まれることから、小学校の先行統合を行い、小中一貫教育を段階的に進め、小学校と中学校を一つにした新しいシステムの学校（義務教育学校）教育が円滑に進められるようにすること」であり、基本方針(案)は複数の複式学級が発生する前の統合を方針に掲げており、統合時期は検討委員会の提言を踏まえています。</p> <p>小学校の複式学級を解消するために、学校のあり方の方針を進めているのではなく、大江町の望ましい教育環境の実現のため基本方針(案)を策定しています。複式学級には教員の特別な技術が必要となる等の課題が一般的には指摘されているところ</p>

		<p>いてあった。更に負担を掛けるのを覚悟で実施するのか。</p> <p>いままで複式学級を担任したことのある教育委員会内の教育経験者、村山管内の現職の教員がどのくらい存在するのか疑問である。東小学校の現職の教員の声は何も聞こえてこないし、町からも現場の声を聞かせてもらえない。令和10年度先行統合となれば、令和9年度の東小学校の2,3年担任教員は過酷な業務を抱え込むことが明らか、それを支えるために、町は、残された教員が援助する体制をとるなどと言うのかもしれないが、労働環境の悪化は避けられない。</p> <p>複式学級ができてしまうことに関し、過去の複式学級の実態を知らない方が多いと思われるにも関わらず、これについての具体的ないいこと悪いことという言葉での説明が一切なかった。これが始まれば、当該児童の負担が絶対ないとは言えないと思う。</p> <p>よって令和9年度は、複式学級を開設することなく、小学校の先行統合の初年度にすべきである。町は、先送りすることなく2年間で小学校統合を成し遂げるべきであると考え。まだ2年ある。2年でできない理由を述べるより、児童と教員の負担軽減を優先させるため、令和9年度の統合を完成させるべく町の努力を願いたい。楽しい新しい小学校を作るのが先ではないかと思われる。</p> <p>複式学級開設時にあたるのが令和7年度入学の9名と令和8年度入学の5名の各1年生と書いてあるが、まだ未就学児であることになりその保護者にきちんと意見を求めたかと質問したところ、同意を得たと言うが、積極的な同意を得たとは信じがたい。</p> <p>検討の余地があると思いますので、ぜひ3月31日までに書面での回答をいただければありがたいです。よろしく願いいたします。</p> <p>*「」部分は、基本方針案10ページ(2)からの引用部分である。</p>	<p>ですが、周辺市町では現在も複式学級を持つ学校があり、様々な取組が行われ、単式学級と大きくは変わらない授業の形式で進められていることを視察などにより確認しています。小学校の統合にあたって教育委員会では、基本方針(案)中の方針2の説明である11ページにも記載しているように「児童は学習環境や生活環境、教職との関係等が大きく変化することになるため、新たな生活に可能な限り戸惑いが生じることないように学校生活や行事などにおいて、統合前に十分に児童同士の交流活動を行うことが不可欠」と考えています。今後の約3年間で統合する小学校間での教育課程等の調整や情報交換を密に行い、子どもたち、教職員がスムーズに統合後の学校で生活が送れるようにしていきたいと思います。本郷東小学校では統合にあたり閉校の準備等も並行して必要になりますが、複式学級まで約2年、統合・閉校まで約3年の期間があるため準備が可能と考えています。</p> <p>これまで複数回の説明会を開催しましたが、町の広報やSNS等での周知のほか、小中学校、保育園・幼稚園の保護者にお便り等を使用して説明会・意見交換会の案内を行い、多くの保護者の方に参加をいただきました。保護者の方々からも統合時期や複式学級についてご了解をいただいていると考えています。</p> <p>また4月の本郷東小学校PTA総会時に教育委員会の考えを説明し、出席された皆さんに基本方針</p>
--	--	---	--

				<p>(案)にご了解をいただいたと考えています。</p> <p>児童と教員、保護者の方々の状況を総合的に考えると令和10年度までの約3年の期間を持って、学校と町等が協力し統合を進めていくことが最善であると考えます。</p>
11	14 項	義務学校開校までの進め方について	<p>3年後の小学校統合により、左沢小に合併にともなって、今の本郷東小学校を廃校にするのではなく、大江中学校を一時的に本郷東小学校に移動させる事を提案致します。子供の中学進学に向けて昨年初めて校舎に入ってみました。校舎の老朽化は否めないと感じました。暗く寒く空き教室も多く今現在の生徒数には見合わない規模で耐用年数からしても今後8年校舎を活用する事は難しいように思う。本郷東小学校は3校舎の中で1番新しく、設備の整った校舎である事はあきらかであると考え。1番設備環境が良い学校を廃校にし、使わないよりむしろ活用してほしい。子供達を少しでも施設が新しく奇麗で明るい冬あたたかい学校に通わせてあげたいと思う。令和8年に建設・改修の決定がされるようだが、その前にどのくらい予算と見積りのどのくらいの規模の校舎にするか具体的な数字と設計なのか町民に広く説明する事を希望します。にじいろ保育園の二の舞にならないよう児童数が想定外に減少する事はもう想定内にして考えて頂き、そうなった時の事を考えて校舎を建設した方が良い。一時的にぎゅうぎゅうな感じになったとしても、町が説明会での予測よりはるかに減少すると私は思っています。予測が十分たつまで中学校を本郷東に移して今ある校舎を最大限活用してからでも遅くない。現状で大江中は49年間経過していてあと8年活用して57年活用しようと町はしているわけだから。その考え方からすると本郷東小学校なんてあと25年は活用しようと思えば使えるのだから。</p>	<p>中学校の施設と小学校の施設の備品や器具等の仕様の違いや特別教室(美術室や技術室)、体育館などの状況を考慮すると中学校を本郷東小学校に移転することについて現状は難しいと考えています。しかし、義務教育学校の建物の建設・改修については令和8年度に決定する予定にしており、ご意見については今後の具体的な学校像を定めていく基本構想・基本計画等策定時に参考にさせていただきます。その際には、具体的な内容を含め、町民の方々にも説明を行っていきたいと考えています。</p> <p>なお、大江中学校は耐震補強工事をしており、かつ電気・空調設備は更新等を計画的に行っております。</p> <p>※説明会では、長期的な児童生徒数について、町の予測として十数年以上先の児童生徒数を出すことは困難であるとしたうえで、昨年度の出生数が16人であることから、1学年十数人規模という予測を用いて話をさせていただいています。</p>